

茨木市立白川小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和3年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- | | |
|------------------|---------------|
| ①言葉の特徴や使い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ②A話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ③B書くこと | やや課題が残る結果であった |
| ④C読むこと | やや課題が残る結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問 問題番号 2二
- ・もっとも正答率の低かった設問 問題番号 2三
- ・もっとも無解答率の高かった設問 問題番号 3二、3三(1)ウ、3三(1)エ
- ・もっとも無解答率の低かった設問 問題番号 1一、1二、1三、2一、2二

分析

全体的に記述式になると、正答率が低くなっている。問題文が長くなると、必要な情報を選択しながら読み進める力に課題が見られ、何が問われているか読み取れていない傾向が見られた。また、語彙力を高める取組みも必要である。

条件が二つになる時や、複数の回答が必要な時にはどちらか一方しか答えられていない児童も多かった。大事な部分には、線を引くなどの工夫や、日ごろの授業の中でも表現目的とその条件を分析し、それに応じた文章作成能力の育成を行うことが必要である。

○●算数●○

(領域ごと)

- | | |
|----------|-------------|
| ①A数と計算 | 概ね良好な結果であった |
| ②B図形 | 概ね良好な結果であった |
| ③C測定 | 概ね良好な結果であった |
| ④C変化と関係 | 概ね良好な結果であった |
| ⑤Dデータの活用 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もともと正答率の高かった設問 問題番号 3(1)、3(2)
- ・もともと正答率の低かった設問 問題番号 2(3)
- ・もともと無解答率の高かった設問 問題番号 3(4)、4(3)
- ・もともと無解答率の低かった設問など問題番号 1(1)、1(2)、1(4)、2(2)、3(1)、3(2)、3(3)、3(5)、4(2)

分析

国語で分析したように、文章題になると問題を理解しきれていない。絵で状況を説明しているものがあったとしても、絵と文章を結び付けて考えられていない。見たままの数字を公式に当てはめてしまったり、数字を前から順番に計算してしまったりと、しっかり問題文の意図を理解し、回答を導き出すことに課題が見られた。

複数の回答が必要な時、どちらか一方しか答えられていない。複数の情報を整理し、必要な情報が何なのかを取捨選択することにも課題が見られる。一方で棒グラフを読み取る設問については、正答率が高かった。日ごろから他教科でも資料を読み取るなどの活動の成果が出ている。算数でも、読解力の必要性を感じるので、授業の中でも問題をイメージし、全体で共有するといった活動を取り入れていく。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

今年度の結果については、国語算数ともに平均をやや下回る結果となった。しかしH22年度～H27年度の5年間の結果とH28年度～R3年度の5年間の結果の平均を比べると、着実に伸びつつあることがわかる。無解答率も前回と比較すると増加しているが、過去5年間を見ると減少傾向である。算数の無回答率は全国平均よりも少なくでているが、国語に課題があるため、「書く」ことに抵抗を持たないよう指導が必要である。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

今年度の結果は前回と比較すると、高位層が減少し、低位層が増える結果となった。しかし、過去5年間を見ると、低位層は確実に減ってきており、高位層はほぼ横ばいである。ただ、算数の低位層に課題が見られるため、学校全体で取り組んでいる算数科における問題解決型学習で、学習を継続するとともに、基礎基本の定着を図る必要がある。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

算数では、基礎基本の定着により計画的に毎日計算プリント等で復習し、定着を図っていく。また、問題解決型学習に取り組んできた成果として、公式などを忘れても、自分の知っていることを使い問題を解こうとする姿勢は見られるので、取組みを継続していく。

国語では、毎日国語プリントに取り組んでいるが、文法などは少し成果が見られるが、読解力につながっていない。国語でも、算数でも、文章を読み取るための取組みを重点的に進めていく。

【白川小の取組み】

① 研究授業・研修会

・教科学習、支援教育、人権学習など各学年1回程度の研究授業と研究発表の実施

② 授業づくり

- ・授業改善の視点の明確化と学習ルールの確立→【東雲スタンダード】の実施
- ・教材、教具の工夫→ICT機器の活用等
- ・多様な意見交流の場の設定、共同学習の推進→主体的・対話的で深い学びを進める
- ・スクールサポーターによる入り込みや個別支援の充実

③ 読書活動

- ・読み聞かせボランティアによる読み聞かせの実施 図書委員による読み聞かせの実施
- ・調べ読書の推進 ・家庭読書の推進 ・読書カード

④ 算数活動

- ・問題解決型学習の継続
- ・算数の学習事項の定着をはかるための、反復プリント学習
- ・毎日の計算、毎日の国語など、全校で取り組み効果の上がっているものを継続

⑤ 意欲を喚起する授業、「楽しい！わくわくする、よくわかる」授業実践の追究